

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	(株) クラ・ゼミ こどもサポート教室「きらり」岡崎羽根校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日		～ 2024年 12月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44名	(回答者数) 44名
○従業者評価実施期間	2024年11月 21日		～ 2024年 12月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別のマンツーマンの療育→支持が入りやすく、できる事を増やすことができる。	お子様の成長に合わせて、支援内容や、内容数（1回）の支援者が工夫して準備している。その日の体調や、気持ちに合わせて、臨機応変に内容の変更もできる。保護者の要望や、主訴によって長期目標を立てて本人と保護者に達成感を味わってもらえるような療育を心がけている。	短期目標としては、支援者と信頼関係を構築して、場所にも慣れて楽しんで通所していただけるよう要望や、意見をくみ取れるような場所と時間を設ける。楽しい支援内容につながる為に、工夫やアイデアが出せるように常に、支援者も学ぶ姿勢を借さない。また支援内容の職員間の共有をして、支援に反映させていく。
2	利用者それぞれに合わせた、オーダーメイドの療育。→お子さまに合わせて、保護者のご要望も含めて、毎回違う内容の支援内容で療育ができる。	出来たを増やし、自信につなげてもらえるよう促している。学習や、コミュニケーションでの躓きの理由を補助して経験値を高めて、成功体験を多く積んで、あらゆる生活の場面、特に集団の生活での困り感を軽減する補助をさせていただく。	ご要望に沿って、課題に楽しんで取り組み、習得して成功体験から自信を持って、他者と関われるように支援方法を学び、状況や成長に併せて、随時変更していけるように支援者も成長する為の学びを深めていく。お子様と共に、保護者の不安や、困り感に気づきやすい環境を作っていく。
3	保護者様と毎回顔を合わせ、当日の様子と今後の支援などをお話するフィードバックという時間がある。→家庭や学校などの様子を共有でき、支援内容に活かすことができる。	年齢の低いお子さんの支援内容は、保護者の要望と本人の興味関心のある事を織り交ぜながら、目標に向かって成長していけるように支援内容・課題・教材などを工夫している。相談は、随時受け入れて、集団での相談も座談会という形式で実施している。	年齢の低いお子さんだと特に、支援内容が保護者の要望に偏りがちになる。お子さん本人が楽しく取り組めるように折り合いをつけることが大きな課題である。支援者が、子供達の苦手意識のある課題も嫌いだけれど楽しく取り組めるような知識と方法を身に付ける為に学んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別で短時間の支援なので、コミュニケーションの練習などは机上の練習になってしまう。想像力や、支援者とのやり取りから学んでもらうしかない事。	小集団での療育を不定期でも実施できると良いと考えている。机上でも自ら考え選択できるようになるSSTを取り入れていく。知識として、考える源になるように補助している。個別だからできる、成長を促せる面と個別だから、伝わっても実践出来ない面がある事の中和が必要かもしれない。	机上でのSSTを充実させるために、支援者がやり取りの術を向上させるために学んでいく。児発、放デイ共に小集団での療育を不定期でも取り組めるように提案していく。あわせて、学習含め、出来ることを増やしていくことが自信になり、コミュニケーション能力を結果高められると理解してもらおう努めていく。
2	保護者の要望が、学習支援が多いので、子供たちにとっては、嫌な事を中心の療育となってしまう内容が多いこと。学習支援＝塾的な要素を求めてご利用される方がいる事。→点数をあげる場所ではない事を知っていただきたい。学びの意欲、学習を楽しく感じてもらうための術、自信をもって生活するためのきっかけづくりの場所と理解してもらおう事。	点数など気にせず、学ぶ事を楽しいと感じてもらえる課題や教材の準備、支援方法が必要と感じている。結果良い点数に結び付けば、成功体験から自信に繋がりが学校生活が楽しいと感じてもらえるような療育としていく。学校は、学びの場。すべてのお子さんに、学習に触れていってもらえるような療育に取り組んでいく取り組みを社会に知ってもらう事。	学力アップの場所ではなく、SSTと学習と将来の為の目標をもって活動する場所であることを周知していく。学校生活を送る為の補助的な場所と理解してもらおうことも必要かもしれない。
3	ありがたいことに、ご利用希望者の方が多いが、退会者も少なく、支援が必要だと思われるお子さん達にご利用いただけない事。	早期療育の大切さを知っていただき、年齢が低い時から支援させていただける様に周知活動を行っていく。	「誰にだって輝ける舞台がある」どのお子さんにも無限の可能性のある事、可能性を引き出すサポートをさせていただく、保護者とお子さんにとって優しい居場所となるように努めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名 (株)クラ・ゼミ こどもサポート教室「きらり」岡崎羽根校

公表日 2025年 1月 14日

利用児童数

44人

回収数

44人

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	33	10	1		勉強を見てもらう分には問題ありませんが、隣が近く狭いかなと思います。	現状の環境で満足していただけるよう支援していく。気になる方には個別に対応していく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	44					適切な配置数であることを周知していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	34	10				駐車場の位置などから、屋外の完全なバリアフリー化は難しいが、屋内はバリアフリー化している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	40	4			パーティションの仕切りで区切られており、周りの声や人の動きが見えるので集中力が気になる。	日々清掃、感染予防に努めている。気になる方は個別に対応していく。（イヤーマフや別パーティション等。）個別の支援場所としては、集中力を高められる適切な環境であることも説明していく。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	43	1			・無理強いさせることは、決してないがその子の現状により+αになる支援をしてもらえる。 ・SSTについては、指導に慣れている先生とまだ慣れていない先生がいると感じています。 ・特性に応じた学習のやり方になっているのか気になる。	個別に要望を把握する為に家族支援、子育てサポートを実施した内容に沿って支援を行い、専門的支援計画を立てて専門的支援の実施に努める。ここに必要な、特性に合わせた内容の課題を用意している。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	43			1		子ども家庭庁、行政の指導のもと事業所支援プログラムの作成と公表に努めている。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	44				学友習面でのサポートをしていただき心強いです。	個別に要望を把握する為に家族支援、子育てサポートを実施して、丁寧なモニタリングから個別支援計画作成に努めている。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	41			3		本人支援においては、個別支援計画策定から、「5領域」を必ず取り入れ実際の支援にも取り入れ記録にも残している。「家族支援」は集団では「座談会」や個別の相談体制を整えている。「移行支援」は、関係先と連携が取れるよう努めている。今後は機会を設けて実施し、保育所訪問と合わせて増やしていく予定。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	44				とても丁寧です。	アセスメント、モニタリング日頃の相談から計画を立案した内容に沿って支援をしている。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	39	4		1	季節ごとのイベントなど、子どもをあきさせない工夫がされていると思う。	毎回のフィードバック、モニタリングなどから常時、状況・成長に合わせて支援内容を毎回変更できるように努めている。開校2年目となり、各種行事やイベント開催にも力を入れている。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	3	24	11		保護者の要望や必要性に応じて、実施していく。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	44					契約時に説明しているが、随時質問に回答していく。また校内に掲示もしている。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	44					放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の狙い支援内容と、これに基づき作成された「放課後等デイサービス支援計画」を示しながら、支援内容を説明し、保護者と職員間で共有していく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	21	7	9	7	児発管が司会となった保護者会があり保護者同士の話し合いの中で子供への「褒め方や接し方」についてアドバイスがあった	個別に相談を拾っていない可能性がある。ご要望に応じて実施していく。R6年に開催した座談会を今後も定期的に実施し集団の家族支援にもつなげていく。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	44				・親ともよくコミュニケーションをとってもらっています。 ・支援中のフィードバックの際に色々お話をできています。	毎回の支援では、フィードバックから、お子さんの様子や健康面での様子を把握することに、全職員でつとめている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	42	2			毎回の支援の後に相談させてもらっている。	家族支援、子育てサポートでの相談支援以外にも、随時電話等での相談体制も整えている。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	43			1		毎回のフィードバックや支援の様子などから、どのような支援が必要かお子さんに合わせた内容や教材の選択に努めている。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	7	12	10	・最近保護者同士の集まりがあった。 色々な意見や悩みが聞けて良かった。 ・きょうだい向けの「イベントはなかったと思います。	個別療育が軸ではあるが、保護者の意向を再確認し、必要に応じて職員間で連携して、「座談会」の開催の継と、「きょうだい同士イベント」は一部で実施、今後は拡大して開催していく予定。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	36	2		6		職員から報告を受けた相談内容は、即時対応している。家庭での急な困り感等には、電話などでも対応している。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	43			1		毎回の支援で必ず、保護者・また本人の意思確認ができるよう配慮している。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	28	5		11	LINEでお知らせをいただき、イベントを楽しんでいます。	ブログやLINEなどを通じて、活動内容やスケジュールを伝えている。12月からインスタグラムも開始した。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	41	1		2		鍵のかかる書庫に保管している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	32	6	3	3		各種マニュアルを策定して、掲示やLINE配信、口頭で説明を通して保護者に周知している。実際に訓練に参加してもらいブログに掲載し、校舎内にも掲示し周知に努めている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	8		9	訓練されているか(いつ頃)と思いますが分かりません。	年間スケジュールを作成し(安全計画にも掲載)月1回以上訓練をおこなっている。SNSや校舎内に掲示している。周知を広めるためにLINE配信にも加えている。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	38	2		4		安全計画に基づき、設備校舎環境の点検と共に、防災訓練含め、避難所、備蓄品などの確認に努めている。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	32	3		9	・そういった事案がないので(今まで)わかりません。 ・事故が発生したことがないのでわかりません。	作成されたマニュアルに沿って、事故発生時の緊急事対応の周知と、事故発生後の報告書の提出、行政対応含め体制を整えている旨を周知する機会を増やしていく。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	42	2			・学校と違い1対1で先生が反応してくれるので、子どもはうれしいようで ・安心して楽しく通えています。(28にも当てはまる) ・以前から安心感を持っている。その日の気分で変動が大きい。	子供達、保護者共に安心できる環境作りと療育に努めている。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	31	12	1		・毎週「きらり」に行くのを楽しみにしています。 ・気分が乗らないときはあるが行き渋りは無い。	学ぶ事が楽しいと思える支援内容を提案していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	42	2			学習が中心ですが、先生が上手に支援してくれるので嫌がらずに通所しています。	学ぶ事が楽しいと思ってもらえること、個別の支援から、将来の進路の相談も含めて、満足して貰える支援を提案していく。

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名	(株) クラ・ゼミ こどもサポート教室「きらり」岡崎羽根校		公表日		2025年 1月 14日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		パーティション以外に、仕切りで見えない様に、音はイヤーマフなど使用して必要に応じて個別に説明していく。	法令を遵守したスペースを確保している。個別に対応させていただく。不便を感じている方には、対応方法を検討させていただく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		法令で必要とされる配置数に加え、職員を1名以上配置している。	適正な人員配置であることを周知していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		屋外は、駐車場に段差はあるが、改善は困難である。屋内に段差は無く、構造化された環境となっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		清潔と感染症防止のための消毒に努めています。	個別の療育には適したスペースであることを説明していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>			必要があれば個別のスペースの確保でご理解いただけるよう説明していく。また、このスペースで身に付いた集中力は、どのような場所でも集中できる旨を説明していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		各種会議(虐待・身体拘束防止・防災・感染症)を定期的実施し、業務改善に努めている。	業務の役割分担を明確にし、実施していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		法令に合わせて年1回、事業所評価を実施し、業務改善につなげている。	法令に基づいたアンケートだけでなく、意見をくみ取れるような体制作りを整える。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			ケース会議の開始や、個別の面談他、職員間での意見交換共有が出来る時間を増やしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		弊社の他事業所と共に、第三者評価の導入を検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		事例検討会・ウェビナー研修を月1回以上実施。その他、外部研修の機会を確保している。	事例検討会・内・外部研修の参加の機会をさらに増やしていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			支援プログラム作成、公表を行政の指導に合わせて法令に基づき実施している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>			放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目と五領域を含めて、モニタリング・アセスメントから計画作成を行っている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>			各々のお子さんに合わせて、職員・保護者と情報共有を行い、成長に合わせた計画作成に努めている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>			同意を得て作成した放課後等デイサービス計画の内容を、職員間で共有して支援内容に活かしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			アセスメントの内容と、成長に適切しているか日々の様子から判断しながら、確認し共有している。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>			放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」と「5領域」を踏まえ、毎回のフィードバックから保護者の要望もくみ取り、職員間で共有して毎回の支援内容に活かしている。

ほう	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		複数職員で担当する場合、専門性が求められる場合は、チームで立案を行っている。	ケース会議を実施し、支援内容に活かしている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ご利用の度に、保護者様と打ち合わせを行っている。情報共有やご要望の把握に努めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		マンツーマンのニーズに合わせて、個別活動を中心に行っている。集団活動のニーズがあるか、定期的に調査を行う。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝の打ち合わせ等で、確認を行っている。非常勤職員など、打ち合わせに参加できない場合は、会議録等を通して周知をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		情報共有を行っている。緊急性のない場合は、翌朝の打ち合わせ等で確認を行っている。また、個別に詳細にわたり引継ぎ話し合いをしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録、業務日報等に記録を残し、支援の検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に面談を行い、見直しの必要性を判断している。	丁寧に詳細なモニタリングに努めていく。
関係機関や保護者との連携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			放課後デイサービスの本人支援の構図から4つの基本活動、「自立支援と日常活動の充実の為」「多様な遊びと体験」「地域交流」「子供が主体的に参画する」を組み合わせ、本人支援（5領域の支援）をオーダーメイドで提供できるよう取り組んでいく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			選択肢を自ら選べるような、工夫をしている。本人の意思をくみ取る、聞くことが出来る様な支援をしている。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			出来る限り、職員全員で共有して誰が参画しても可能な体制作りを努めている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			緊急時に備えて、マニュアル化して体制作りを努めている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者を通じて、情報共有は行わが、直接出向くなどの必要性は、現状無いと思われる。今後は保護者のご要望に沿って。	要望や必要性があれば、保育所訪問支援も実施していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		ご要望に応じて実施している。会議や文書等によって、情報共有や相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		今後、保護者様のご要望に合わせて、移行支援を行う。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			R7年度より、担当地域児童発達支援センターのサポートを受けられるようになる。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		保護者様の意向を確認し、必要に応じて、今後、実施していく。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		研修、見学の機会があれば参加している。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ご利用時に、保護者様と打ち合わせを行っている。情報共有やご要望の把握に努めている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者様の意向を確認し、必要に応じて実施していく。場合によっては、フィードバックや、モニタリング、子育てサポート家族支援などで取り入れている。	R6年度から実施した「座談会」形式で複数名の保護者との相談、個別での相談を随時受け入れられるような体制作りをさらに整備していく。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際、保護者様と書面の読み合わせを実施している。質問には、適切にお答えしている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			常に相談の場を設けて、子どもさん本人の意思決定と保護者の要望の中和を促し、最善の利益取得に努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			説明の場を設けて、常に同意を得た上での作成を心がけている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			個別相談の出来る場を設けるとともに、保護者間での相談・情報交換もできるような「座談会」という形式で悩みを相談できる場を設けている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		マンツーマンのニーズに合わせて、個別活動を中心に行っている。保護者会等のニーズは、要望に沿って開催していく。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談に応じて、迅速かつ適切に対応している。体制整備が難しい場合は、その旨をお伝えし、ご理解を得ている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログSNS、LINE等を通して、活動内容やスケジュール等を伝えている。	R6年度12月からInstagramも開始した。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は、鍵付き書庫等で管理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚的な補助(図やイラスト、掲示板、便り)等を活用している。	さらに特性に合わせた、教材や課題を取り入れて工夫をしている。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		マンツーマンのニーズに合わせて、個別活動を中心に行っている。引き続き、定期的にニーズを把握していく。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、定期的訓練を行っている。掲示板やブログ等で、保護者様へ周知している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			BCP(感染症・自然災害)を策定し、訓練を実施し(ホームページ等)で周知している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		受付シート等に記載してもらい、都度聴き取り調査をしている。	詳細な情報を得るために、書面等で随時調査確認をしていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事提供なし。食物アレルギーについては、契約時・契約更新時に把握している。配慮が必要な場合は、医師の指示書を提示いただくようにしている。	詳細な情報を得るために、書面等で随時調査確認をしていく。(48番に併せて)
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全計画を策定し、研修会議、点検、計画の見直しなどを通して、安全・安心な空間で支援をしていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全計画を策定し、研修会議、点検、計画の見直しなどして、周知していく。(校舎内掲示・ホームページなど)
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、原因と対策についての情報共有を行っている。定期的に対策の見直しを行っている。	再発防止に向けて、対策を検討する。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		月1回以上の会議、年1回以上の研修を継続している。	虐待・身体拘束防止ゼロを継続していく。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束にあたる行為があた場合は保護者に報告し、承諾を得て記録に残しておく。	虐待・身体拘束防止ゼロを継続していく。	